

い頁數を取り、各章の中で最も廣い紙面を占めてゐる。最初に生産立地に關する一般的な理論が解説されて居り、その後で農業、林業、牧畜業、水産業、鑛業、工業、の各生産部門に就いての叙述がなされてゐる。それは先づ各生産部門の定義に始まり、次に當該生産部門と自然並びに文化環境との關係或はその技術的發展が簡単に記述され、最後に各論として重要な商品に就いてその生産事情が述べられてゐる。

第四章では商業地理が取扱はれて居り、消費、商業、市場外國貿易の順序で述べられてゐるがその重點は外國貿易に置かれてゐる。

第五章交通地理では最初に交通一般に關する概説が述べられ、次に陸上交通路、水上交通、港灣、空中交通の順序で記され、その際には主要な交通路も叙述されてゐる。

最後の章は人口の分布と移動の記述に費され、人口の分布人類の居住、移動が扱はれてゐる。

既に述べた如く本書は主として高等商業學校の教科書とする目的で編纂されたのであるが、在來のかうした種類の經濟地理書と比較して本書の有する特色を二、三述べて見よう。

第一に擧げられる特徴はその内容が極めて解り易く書かれてゐることである。併しこのことは決してその内容の水準が低調であることを意味するのではない。却つて解り易いことこそ教科書を持つ重大な使命の一つであつて、殊に難しい理論や學說が理解の爲に平易化されてゐる點は本書の持つ長所

の一つであらう。又書中に掲げられた統計表、地圖類は他から借りて來た場合すべてその出所が明かにされてゐる。これは當然のことではあるが、從來の地理書にはそれを缺くものが多かつた。その意味で本書はその良心的な點を充分認められて良いと思ふ。更にその叙述が教科書として煩に過ぎず、適度に要領良くなされてゐることも取り上げられて良いであらう。要之本書は高等商業學校或は廣く専門程度の學校の教科書として、及び經濟地理學の入門書として充分推賞に價する書物であると考へられる。

終に尙本書に就いて若干の希望を述べて見よう。本書に掲げられた地圖の中で外國書から取られたものは原語がその儘使用されてゐるが、地圖が縮少された爲讀み難いものが可成ある。これは邦語に翻譯する方が良くはなかつたであらうか。生産地理の章に於て鑛業は工業の中に含ませるのが妥當ではなからうか。又工産各論に於ては主要製品に尙若干のもの（例へば重工業等）を加へる必要がなからうか。本書の全體の構成並びに扱はれてゐる理論に關しても尙論じ得る餘地があるかも知れないが、併しそれは望蜀の謗を免かれないうであらう。（安藤）

雜 報

○錫蘭の寶石

金剛石・エメラルド・オパールの外の寶

石は殆ど産出しないものはない。

産地はラツナプラでコロンボの東南六十哩計の地點にあり人口約九千、其地質は洪積紀の河床で、同地では川から寶石も出ることがある、主としてこの邊の地下の白砂の中から出るので、土人は非戸を掘つて白砂を出し附近の川に運び備にかけて原石をとる、恰も河内二上山麓の金剛砂採取と同じこととて非戸は五十呎以上にも達する、原石はカルタラ・ゴール又はコロンボに送られて彫琢される。

錫蘭サファイヤは有名で白・青・ピンクの三つあり、白は錫蘭ダイヤモンドといはれる、黄サファイヤはトツパスに似る、ピンクとエローの混合したものは黄玉王といはれる、錫蘭ルビーは紅・白・スタールビーの三種がある、紅はピデヨンブラットといひ光澤がある、猫眼石は世界中こゝのみで緑と黒とがある。日中綠色で夜間は赤にみえるアレキサンダー、日中赤にみえ夜線に見えるトルマリンも出れば、アフマリンとて綠柱石も出る。スピネルに各種あり、青スピネルはサファイアよりも珍らしがられる。ジルコンには青・褐・白・綠の四色がある、白色ジルコンをブリアントカットしたものはダイヤモンドと異ならず、古來マーラータ・ダイヤといふ、緬甸のピルマ・ダイヤよりもよいが、暹羅にもこの白色ジルコンが出る、シンガポールに行くと、こゝが世界寶石の本場かと疑ふといふ事であるが、多くはこれらの産地を控へてゐるからである、ムンストーンにも白と青とがある、セイロン獨特で大

型は高い、水晶と紫水晶は廿年前までは日本に輸出され甲州水晶となつたが、其後日本はブラジルから原石を安く買付けてセイロン産を顧みない。

この外マナール灣の多くのバンクに眞珠牡蠣の繁殖地がある十數年毎に一回採集する習慣がある、丸形でなく西洋梨形のもは稀有の品として高價に取引されるといふことである

○ランカシアの綿業

ランカシアはこゝ數年間重大事件に遭遇したが、今は更生途上にある、ランカシアの世界綿製品貿易を襲つたものは、諸外國の工業化と關稅とであつて綿製品の市場は熱帶亞熱帶の農民であるから、農業が不振になると購買力が減じる、収入が減じると農民は第一に衣服費を節約するので市場自から狭隘になる、リングヤ自働織機が發達して國內の消費以上の餘分が大量に出來る國が段々多くなつたと同時に、多くの國は綿製品に高稅をかけて輸入をとめるやうにした、それでもランカシアの人々はこれに對抗し戦前の平均輸出額の三分一に達する輸出を維持してゐる。

更生策の第一は、英國の誇であつた自由貿易主義の放棄であつた、一九三二年になつて一般關稅率を採用し、以て他國の稅率其他の利益を保持するための武器にし自治領とはオタワ協定で、他國よりも稅率を低くして、ランカシア綿業を保護するに至つた。ことに對日策として自由植民地及保護地で日本綿布及人絹布に割當制を採用した。

更生の第二策は綿業内部の改造でランカシア・コットン。

コーポレーションをつくつて、過剩紡錘整理をはじめた、販賣價格の標準化をもはかつて生産能力を縮少して廉賣による不必要な内部競争を終熄せしめんと企てゝある、販賣部門では有力會社が弱小會社を併合する方法で、昔のやうに海外取引先の注文を豫想して自ら注文し、生産者に繼續的に大量生産をやらさないで、海外注文をうけて後に購入するやうに變へた。國內では他國品の消費を國內品にむけるやうにしたが消極的になつたから、大戦前にドーティー百萬組、シャーチング五萬反を買ひたいと思へば其日の午後の中にも買ひ集めることが出来たけれども、今日ではもはやそんな大量生産はない。製造者と消費者との緊密な接觸によつて思惑をしないやうにすることになつた。

更生の第三策は綿業内部の協力と製品の變化で特によくられる特殊製品に力を出し人絹其他の纖維を併用しカシミアやフランネルの襯衣のかはりにポプリンやゼーファイヤー製品を用ひるやうになつた傾向にのつて、ランカシアは棉花以外の纖維を處理するに至り綿布の皺寄りを防ぐ技術を發明し或は綿布を縮める丈け縮めるリゲメル法を發明などして製品の優良化をはかつた。

以上はマンチエスター、ガーディアン紙の報告によるランカシアの現状である、更生といつても廉價な日本品には容易に勝てない。そこで最後には濠洲で日本品に高率關稅などをかけるやうになつたのである。

○英國の貨物船貿易

一九三一年の恐慌以來、英國國內市場の活動は増大はした、しかし英國國內市場の購買力は何としても海外で英國品がうれなくては増加のしやうがないことも明であるからランカシアの綿業が疲れたと同様に船舶業を含む工業も疲弊してゐる。英國海外貿易の統計が示めす通り一九三一年以後事態の恢復振りは一九二一年から一九二九年までの恢復に遠く及ばない。

エチオピア戦争で船舶は少しは動いたけれども一九三五年中に英國の船舶の収益で代船新造費を出すことは出来なかつた。海外貿易に従事する商船數は一九二九年に一千百萬噸二十一萬六千の船員があつたのに一九三四年には九百萬噸十六萬三千人に減少した。之を一九一三年に比較するに一九三五年中の輸入貨物は數量一割二分方多かつた、けれどもこれを運んだ船は二割九分増加したから船の利益は却つて減少である。輸出貨物も一九一三年に比して三割一分方減少した。荷物が減つたにも不拘輸送に當つた船は一割七分増加してゐる。

かくて英國の現存せる商船隊は、英本國の海外貿易のみでは十分な就航の機會がないと云つてもよい、自然的に英國商船は凋落するかもしれない、英國がやつきになつて特惠關稅で自治領内での商品の動きをはかつて、今日の世界一般の經濟國家主義的諸政策が維持される限り、春は英國の船舶に戻つてこない、華々しかつた過去の自由貿易の世が羨ましいやうになつた。日本品も世界到る所で高關稅に遭遇すると自

から船舶運輸が狂つてくる。英國も何とかして自由貿易に歸らねばならぬであらう。

○石油世界産額

一九三五年の原油の産額左の如し。

米 國	露國(樺太を含む)	ヴェネズエラ	ルーマニア	イ ラ	關領東印度 (英ポルネオを含む)	メキシコ	イ ラ ー ク	コロンビア	ペリユー	アルジエンチン	トリニダード	英領印度	波 蘭	ド イ ツ	日 本	エクアドル	埃 及	カ ナ ダ	
九六、〇〇、七五五	一〇、〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇、〇〇〇	六、七五、〇〇〇	五、〇〇、〇〇〇	三、七五、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	一九三四年	一九三五年	

合 計 一、六五五、〇〇〇、〇〇〇 一、五九六、〇〇〇、〇〇〇

主要油産國中羅馬尼及伊蘭二地方のみは前年に比して減退した。伊蘭の石油は英波石油會社の獨占で需要に應じて毎月

の採油高を制限してゐるから一九三六年需要が恢復したら増産する。たゞしイラクの産油が増加するとイランは減退する

のだ。米國の記録は從來の最大記録たる一九二九年度につき

ヴェネズエラとロシアとはイラクと共に最高記録に達した。

メキシコと南米は一般に増産したが、メキシコが一九二〇年

代の盛況を恢復するには一段の努力を要するであらう。

○世界石油消費額國別比較 (一九三五年度)

米 國	ソヴェエト	イギリス	フランス	カナダ	獨逸	日 本	アルジエンチン	イ ラ ン	支 那	南 洲	阿 比 西 亞
九七、〇〇〇、〇〇〇	三三、二五〇、〇〇〇	七、七五〇、〇〇〇	四、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、七五〇、〇〇〇	一、七五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
メキシコ	ルーマニア	伊 太 利	關領西印度	英領印度	波 蘭	關領東印度	日 本	埃 及	南 洲	阿 比 西 亞	一、〇〇〇、〇〇〇

水晶・滿倦・雲母・瑪瑙等の鑛産をはじめ、原棉・マラン・スーパ織維・粗製ゴム・珈琲・カルナウーバ・澱粉・グアラナ・藥草・マモーナ・胡麻種子等の農産物、フレイジヨ・パウアマレイヨいづれも木材・カカオ・コパイバ油・ウリウバ蠟等を輸出し、日本からは、陶磁器・毛織糸・絹糸・セルロイド・並同製品・電球・各種紙類・驅蟲劑・貝殼・珊瑚・象牙真珠細工・紡績機械及附屬品自動車タイヤ・自轉車・鐵管等、新しい商品として當國市場に進出しはじめ、特に毛織糸は其品質優良で價格低廉なために増進めざましく、佛・英・白・獨について過去十ヶ月間に一躍第五位にのぼつた。目下實行旺盛で外國品を壓倒せんとするの勢をしめしてゐる。其他あらゆる雜貨品もやうやく當國市場で認められるやうになつた。

しかし何といつても米國の顧客で輸出の三割九分、獨・英・佛・亞等が輸出地で本邦は第十五位、輸入も米國第一で、獨逸・英國・アルジェンチンの順序で本邦は第十六位である。

○米國の對外貿易

一九三五年の米國貿易は輸出二十二億八千二百萬弗、輸入は二十億四千八百萬弗に上りいづれも七分乃至二割四分の増加で一九三二及一九三三年の貿易不振に比すれば輸出三割九分輸入四割八分である。これを前記英國の對外貿易と比較すると流石は米國は富んでゐるだけに貿易も活潑であるといはねばならない、米國貿易の好轉の原因は諸外國の經濟狀態の好轉であり又諸外國の戦争に對する脅威が軍需品等を米國に求めしめた影響もあるが、二三の國と互惠條約を結ぶことも好轉の結果をしめし從來對外貿易を制

限しつゝあつた障壁を漸次低下したことも與て力がある。

何といつても米國は天産物が多い。輸出十億弗にも上る所の棉花・烟草・自動車・石油などがあるが、かうした特殊の外に磨粉から亞鉛に至るすべての商品リンカーから機關車に至るあらゆる器具があつて米國から南米への輸出は甚だ多い。しかも歸航には更らに多くの原料品を積んでかへるから船舶も活動する範圍が大である。さうして對歐洲貿易では米國總輸出の四割五分が運ばれ、輸入は總輸入の二割九分に達するから米國の市場の第一は歐洲であり英國との取引が多い。つぎは佛國が第二位であるが獨逸との貿易は振はない。

米國に生産しない護謨・生糸・茶・香味料・砂糖等の主要原産地たるアジアは一九三五年に米國への原料供給國であつた。支那が不景氣なために米國品の輸出はこの方面で減じた。

しかし對日貿易は米國からみて世界第三の市場である、一九三五年に米國から二億三百萬弗を輸出し日本から一億五千萬弗を輸入したから差引對日輸出超過は五千萬弗に達した。日本こそ米國の一大顧客である。對カナダとの貿易でも輸出三億二千萬弗、輸入二億八千六百萬弗であるから太平洋をへだてた遠い日本との右の貿易額は米國からみて感謝されてもよい。對南米は相互補助であつて原料品が米國に輸入され約五億萬弗にのぼり輸出は三億七千六百萬弗にのぼるのである主として半製品と完成品である。

かやうに考へると一國としての日本は米國からみていかにも世界第三の市場である、日本綿布に課税するなどいふことは公正な政策ではないであらう。